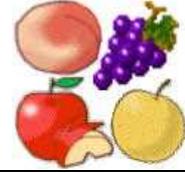


平成28年度 果樹情報 第4号

(平成28年5月6日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (果樹研究所 4月下旬)

4月5～6半旬の平均気温は、5半旬が13.2℃で平年より0.3℃高く、6半旬が12.3℃で平年より1.5℃低く経過しました。また、この期間の降水量は55.5mmで平年の201%でした。

2 土壌の水分状況

5月1日における土壌水分 (pF値：果樹研究所ナシほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで1.6、深さ40cmで1.5、深さ60cmでは1.4となっており、やや過湿状態となっています。

3 発育状況

(1) りんごの満開は、「つがる」「ふじ」とともに4月23日で平年より8日早い状況でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
りんご	つがる	4月19日	4月26日	4月21日	4月23日	5月1日	4月25日
	ふじ	4月18日	4月26日	4月22日	4月23日	5月1日	4月25日

注) 平年値は1986～2015年の平均値。

(2) モモの硬核期予測

DVRモデルによる「あかつき」の硬核期予測では、本年の硬核期開始は6月5日頃で平年より5日早い見込みです。

表2 モモの硬核期予測 (5月1日現在)

品種	硬核開始日		
	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月5日	6月10日	5日早い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1986年～2015年の平均。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成28年5月5日発表)より

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱まる時期ですので、気象情報には十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

本年は、生育が各樹種ともに平年に比べ1週間程度進んでいるため、生育ステージごとの安全限界温度以下に遭遇する恐れがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照してください。)

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策(平成28年3月14日)」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/155972.pdf>

事前対策として、防霜資材の手配と準備は必ず行うとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度に刈り込みましょう(地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれがあるので注意しましょう)。

また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう(乾燥条件は気温の低下を助長します)。

降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、下記の技術対策を参考に摘果等の管理を適切に行いましょう。

農業技術情報第2号「凍霜害が発生した果樹類の当面の管理」(平成28年4月28日)

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/163053.pdf>

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご黒点病

りんご黒点病は落花直後から感染がみられ、特に落花10日後から30日後の期間に感染しやすいので、この期間に降雨が多い場合は散布間隔が10日以上あかないように注意して防除を実施しましょう。

イ もも灰星病

花腐れは果実への伝染源となるので、見つけ次第摘除し、適切に処分しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

4月中旬における春型枝病斑の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに例年より高い状況にあります(県病虫害防除所、平成28年4月20日付け病虫害発生予察情報・注意報第1号)。本病は発生初期の密度抑制が重要であり、春型枝病斑は葉や果実への伝染源となるので定期的にはほ場を巡回し、見つけ次第せん除して適切に処分しましょう。新梢葉での発生が確認された場合には、付近に春型枝病斑が発生している可能性が高いため注意してください(図1)。また、落花10日後にせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。



図1 ももせん孔細菌病の春型枝病斑及び新梢葉での発生
(果樹研究所4月30日撮影)

エ なし黒星病

4月中旬に浜通りで花そう基部病斑の発生が確認されています（県病害虫防除所、平成28年4月26日付け病害虫発生予察情報・発生予報第1号）。花そう基部病斑が見られる園では見つけ次第必ず除去しましょう。また、開花後の薬剤防除は開花前の防除から散布間隔を10日以上あけずに効果の高いE B I剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布しましょう。なお、開花前後の散布期間が2週間程度あいてしまった場合は、園内での発生状況に留意し、発病部位の除去と今後の防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第1世代の防除適期は4月22日頃であったと推測されます。初期密度を抑えるため、落花10日後の防除を速やかに行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月4半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月2半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他鱗翅目害虫

今後の気温が平年並に推移した場合、ナシヒメシンクイの防除適期は5月1半旬～5月2半旬と予想されます。ミツバチ等を導入している園では、巣箱を回収後、速やかに防除を行いましょう。

エ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月4半旬頃であったと推測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。このため、山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（平成28年5月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	4月22日	5月14日	5月27日
平年並	—	4月22日	5月16日	5月31日
2℃低い	—	4月23日	5月21日	6月8日

注) 演算方法は三角法
起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL:<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL:<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>